

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立大良小学校	
1 前年度 評価結果の概要	<p>○自己評価では、全項目でほぼ目標が達成されたと言ってもよいレベルであった。しかしBの評価をつけた項目と、A評価ではあったものの引き続き指導していく必要がある項目がある。その改善が次年度への向上につながると思うので、以下のような取組をしてく。</p> <p>①業務改善に関しては、本年が昨年度に比べ職員数が1名増となったものの、研究発表会に向けての準備や一人の職員が複数の校務分掌を持っているため目標に反し平均残業時間数は微増した。次年度は、児童の学力保障のための研修会や児童と関わる時間等を確保しつつ〇時〇分には全員退勤するという目標を設定し、行事の精選・共有データ(紙の資料等)を充実することで業務の効率化をさらに推進していく。</p> <p>②安全・安心に過ごせる環境づくりに関しては、年度当初に計画した訓練が新型コロナウイルス感染症対策のため実施できなかったものがある。7月に警察官を講師に招いて「防犯教室(不審者侵入対応訓練)」は実施できたが、交通教室は、各学級でDVD視聴して担任が指導した。次年度は、交通教室を従来通り実際に子供たちに体験させながら進められるよう計画する。また他の訓練では、本校は職員数が少ないので、有事の時に人員が足りなくて子供の安全確保が難しい局面が予想されるので、本年度は、訓練中に声を掛け合い役割分担の確認や協力の依頼を行ったり、避難経路の確認を行ったりすることに特に関心を入れた。子供たち自身にも考え行動する資質・能力をつけるために、訓練前に「災害に関する指導を行い、訓練の最後にはこのような場合にはどうするかや、「なぜ、このような避難の仕方が必要なのか」といった質問等を行うことで児童一人一人に考える時間を設定した。次年度は、計画通りの訓練ではなくて、職員が出張等で人員が足りない場合や休み時間など、有事の時には不安がある(本校のウイークポイント)事項について対策を考え訓練を実施していく。</p> <p>③基本的な学習習慣づくりは、ほぼできているが、早寝・早起き、ゲームの時間等、今後も家庭と連携した取組を進めていく。</p>	
2 学校教育目標	<p>心豊かで 自他ともに大切に 共に学び合う たくましい子どもの育成</p> <p>～正しく、かしこく、たくましく～</p>	
3 本年度の重点目標	<p>1 主体的な学習(かしこい子ども)</p> <p>①よく見て、よく聴き、考えを持ち、伝え合う子 ← 自己表現、伝え合う学習</p> <p>②主体的に学習に取り組む子 ← 計画的学習、そしてふり返り</p>	<p>2 思いやり(自分も周りの人も大切に子ども)</p> <p>①よさを認め合い思いやりの心をもつ子 ← 出番・役割・責任・承認・居場所・活躍する場づくり</p> <p>②「ありがとう」を大切に</p>
3 健康・安全(元気で落ち着いた子ども)	<p>①自ら行動するたくましい子 ← あいさつ、靴の整頓、立腰教育</p> <p>②基本的な学習習慣づくり・体力づくり運動</p>	

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	<p>●全職員による共通理解と共通実践</p> <p>○基礎基本の定着と主体的に学ぶ態度の育成</p>	<p>●学力向上アクションプランの成果指標を達成した教師85%以上</p> <p>○授業で分かったことや大切なこと伝え合う活動を取り入れ、「授業が分かりやすい」と思う児童を90%以上にする。</p> <p>○家庭学習の定着、自主学習を促進させ、学年に応じ、家庭学習の時間を達成する児童を85%以上にする。</p>	<p>・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。</p> <p>・「考えを交流する時間」や「ふり返りタイム」を毎日の授業の中に取り入れる。</p> <p>・自主学習に積極的に取り組むように段階的に支援していく。</p> <p>・家庭の協力を得るために、家庭学習の手引き・学校通信・学級通信などで啓発を図る。</p>	A	<p>・1学期末において、学力向上アクションプランの成果指標が90%と目標を達成している。今後、学力向上アクションプランを共有し、本校の校内研の取組みである「伝え合う活動」の充実を図っていく。</p>
●心の教育	<p>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</p> <p>●いじめの早期発見、早期対応体制の充実</p>	<p>○児童中心に考えを伝え合い、議論する活動を道徳の授業の中に仕組み、道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童の割合を90%以上にする。</p> <p>○道徳や学級活動の時間に「いじめ」に係る授業実践を全学級で行う。</p> <p>○「いじめ」の予防、早期発見に努め「学校が楽しい」と思える児童が85%以上になることを目指す。</p> <p>○相手を思いやる気持ちを育て、児童の人権感覚を育てる。</p>	<p>・年1回「ふれあい道徳」の授業を実施し、学校便りや学級通信等によって、道徳教育や道徳授業の取組の様子を家庭に発信する。</p> <p>・各学年の発達段階に合わせて「いじめ」に関する授業を全学年で行う。</p> <p>・学期に1回、教育相談週間に合わせて「心のアンケート」をとり、担任や職員全体が関わって教育相談を行う。</p> <p>・「人権集会」を年5回以上開き、職員が輪番で人権や共生、協力などの話をする。</p>	B	<p>・6月の唐津教育の日の学校公開で全学年、「コロナ差別」の問題を教材としてふれあい道徳を実施することができた。授業の様子は学級通信で各学年保護者に知らせ、学校だよりで地域の方々にも知らせることができた。保護者から得た感想にも肯定的な回答が多い。</p>	A	<p>・6月の唐津教育の日の学校公開で全学年、「コロナ差別」を教材としてふれあい道徳を実施することができた。授業の様子は学級通信で各学年保護者に知らせ、学校だよりで地域の方々にも知らせることができた。保護者から得た感想にも肯定的な回答をした児童が94%であり、授業が児童の道徳的態度や考え方の育成に寄与していると考えられる。</p>	A	<p>・コロナ対策については、「こまめしなければいけないのか」というくらいに、よく対応してもらっている。</p> <p>・下校後の家庭用ゲーム機での遊びを通して友達とのつながりができている側面もある。「真の友達」をはつくりたいのか見守る必要がある。</p>
●健康・体づくり	<p>◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進</p>	<p>◎日々の授業や行事等の取組を通して、自分の成長(スモールステップ)を感じる児童を85%以上にする。</p>	<p>・様々な教育活動において地域のゲストティーチャーとの交流や、朝会の中で地域のよさに触れさせ、郷土を愛する心や感謝の心を育てる。</p> <p>・読書活動の充実を図り、自らの将来に希望をもたせる。</p> <p>・キャリアパスポートを活用し、自分の成長の跡を振り返ることができるようにする。</p>	A	<p>・総合的な学習において、米作りや和紙作りの活動を通して、ゲストティーチャーに教えてもらいながら、地域の良さに触れ、郷土を愛する心が育てられている。</p> <p>・キャリアパスポートに、各学年の目標や自分の将来の夢に関する資料を残して、振り返れるようにしている。</p>	B	<p>・授業や行事で、「自分がんばってできるようになった」とか「自分は少しずつできるようになっている」と感じている児童は79%にとどまった。自分の成長を感じていない児童が7名おり、キャリアパスポート等を活用し、自分の成長の跡を振り返ることで、結果ばかりでなく過程の大切さに気付かせながら、自己肯定感や自己有用感を高めることが課題である。</p>	B	<p>・自分たちが小学生のころと比べると、いろいろな行事や体験をしている。とても良いことである。</p> <p>・「自分からががつと進んで取り組む」という姿勢はまだまだである。自己肯定感をもっと高めていけるようにしてほしい。</p>
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<p>●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減</p>	<p>●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。</p>	<p>・予定退勤時刻を明確にし、仕事の軽重を付けて業務に取り組む。</p> <p>・金曜日の定時退勤日を徹底するために、朝と退勤10分前に呼びかける。</p> <p>・行事や校務分掌に係る業務の標準化を図り、年間の計画を立てる。</p> <p>・学年ごとのフォルダを整理し、教科フォルダ、行事フォルダ等を作り、お互いのデータを共有化する。</p> <p>・提出期限がある業務に関しては、早めに担当者に伝え、余裕をもって取り組めるようにする。</p>	B	<p>・1学期は、教頭の勤務時間が多かったが、事務主任復帰後業務の調整を行っている。</p> <p>・管理職から18:00前後に退勤を促すアナウンスをする。残っている職員がいる場合にも声掛けを行っている。</p> <p>・朝の呼びかけは十分でないために、職員室ホワイトボードに記載するようにする。</p> <p>・企画会において、業間や昼休みの業務を改善できないか検討し、研究推進委員会でも検討した。</p> <p>・教務主任を中心にフォルダ点検及び整理を呼びかけている。</p> <p>・提出業務の早めの連絡や掲示に努めており、今後も意識してあたる。</p>	A	<p>・退勤時刻については、事前に呼びかけるようにしてきた。書き込みをせずとも、18:00前に退勤できている。職員が互いに退勤について声をかける場面も見られてきた。</p> <p>・企画会、企画委員会において、特設の活動に関わる昼休みの業務が軽減できるように話し合った。次年度は、進行面で上級生がリードするなど児童主体の活動を取り入れたり、学年の実態に応じた活動を軽減したりするなどし、担任の業務縮小を実施する。</p> <p>・6年以上前のデータ整理ができた。転入者が分かりやすいフォルダに整理をしている。</p>	A	<p>・健康に気を付けて頑張ってもらいたい。</p>
●特別支援教育	<p>○特別支援教育</p>	<p>○特別な支援、配慮が必要な児童について職員全体で共通理解を図るために、児童理解協議会(年間4回)を行う。</p>	<p>・児童理解協議会やケース会議において、支援が必要な児童について共通理解を図る。</p> <p>・夏季休業中に外部講師を招いて、特別支援教育の研修を持ち理解を深める。</p>	B	<p>・児童理解協議会やケース会議を通して、問題行動を起こした児童や支援が必要な児童について、共通理解をはかり、これからの対応を考え、実践につなげている。必要に応じて、担任以外が支援に入ったり、様子を見守ったりするようにしていきたい。</p> <p>・校内研修会は取れなかったが、コーディネーター研修で得た情報を資料として配布した。</p>	A	<p>・気になる児童や支援が必要な児童について共通理解を図り、全職員で連携して、対応を考え実践につなげていった。必要に応じて、担任以外が支援に入ったり、様子を見守ったり、今後の対応について全職員で再確認していった。</p> <p>・SCやSSWと連携し、気になる児童の具体的な支援についてアドバイスを受け、全職員でかかわるようになってきたことにより、行動面の改善がみられている。</p> <p>・特別支援学級の授業実践を行い、児童の課題について再認識し、適切な支援について共通理解することができた。</p>	A	<p>・先生方は、よく一人一人の子どもに声をかけてもらっている。</p> <p>・特別支援学級もだが、通常の学級においても、一人一人個性や課題が違うので、よく個に応じて指導の仕方を変えていかなければいけない。</p>

5 総合評価・次年度への展望	<p>●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育</p> <p>・学校教育目標を念頭に、全職員が現状の課題をしっかりとらえて対応することができたために、校内評価及び学校関係者評価の最終評価において、A評価が9項目中7～8項目であった。</p> <p>・他者との交流は、特設の時間だけでなく授業の中にも生かされてきており、各単元の達成度は向上している。そして、今後の課題を、意見の交流を深めさせたり、自分で疑問をもち他者とともに考えていく力の育成に見いだすことができた。</p> <p>・自己肯定感、自己有用感をさらに高めるために、点数や賞かたを大切にしながらもそのみが自己評価する指標ではなく、日々の積み重ねや苦手を何とか解決してこく大きな価値があることに気付かせていく必要が出てきた。</p> <p>・地域・家庭との強い結びつきは学校運営上とても大きな力となった。今後は児童の家庭での時間の過ごし方について協議を深めていく必要がある。</p>
----------------	---